音楽科学習指導案

日時 令和…年…月…日(…)

学校の教育課程等に応じて、教科名や科目名、教科等によっては分野等を記載する。

…校時…:…～…:…

使用するフォントとサイズは、

タイトル、項目 MSゴシック体10.5ポイント

本文 MS明朝体10.5ポイントを使用する。

数字については、１桁は全角、２桁以上は半角で表示する。

学校名 ………立…………学校

対象 第…学年…組 …名

会場 …階 …………教室

授業者 …職 名… ……氏 名……

１ 題材名 ………………………(使用する教科書、副教材等の名称、出版社名等)

２ 題材の目標

(1) ……知識及び技能……。

(2) ……思考力、判断力、表現力等……。

(3) ……学びに向かう力、人間性等……。

|  |
| --- |
| ・　学習指導要領に示された目標や内容に基づき、題材の学習を通じて育成を目指す資質・能力を示す。  ・　「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱を踏まえて、それぞれの資質・能力ごとに分けて記述するとよい。 |

３ 題材の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能(知・技) | 思考・判断・表現(思) | 主体的に学習に取り組む態度(態) |
| ①知　……気付いて/理解している。  ②技　……している。  ③知技　…している。 | 思①　……している。  思②　……思いや意図をもっている。 | 態①　…しようとしている。  ＊ 文末については、例を示す。 |

|  |
| --- |
| ・　学習指導要領に示す各教科等の目標や内容に照らして学習状況を評価する(目標に準拠した評価)。  ・　児童・生徒が育成を目指す資質・能力を身に付けた状況を表す。  ・　どのような資質・能力をどこまで育成するのか、ねらいを明確にして、具体的な評価規準を設定する。  ・　「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点について、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、児童・生徒の実態を考慮して設定した題材の評価規準を示す。  ・　「内容のまとまりごとの評価規準」や題材の評価規準の作成に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(文部科学省国立教育政策研究所 令和２年３月)や「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」(教育庁指導部義務教育指導課 令和２年９月)を参考にする。  ・　知識に関する項目は知、技能に関する項目は技、両方に関わる場合は知技、思考・判断・表現に関する項目は思、主体的に学習に取り組む態度に関する項目は態を、文頭に表記する。また、「知識・技能」の観点においては、「知識・技能」の観点を通して番号を付し、その後に知、技等の区分を表記する。 |

４ 指導観

(1) 題材観

|  |
| --- |
| ・　題材の学習指導要領における位置付けについて、学習指導要領の該当する箇所を引用して示す。  ・　必要に応じて、本題材における重点を置く指導事項や指導の系統性、カリキュラム・マネジメントの視点に基づく教科等間の関連(教科等横断的な視点)等を記述する。  ・　重点を置く指導事項等について、記述する。なお、音楽科においては、本題材の学習において、児童・生徒の判断のよりどころとなる主な「音楽を形づくっている要素」との関連についても記述する。 |

(2) 児童・生徒観

|  |
| --- |
| ・　本題材の学習内容に関する、児童・生徒の既習事項の定着状況等について記述する。  ・　本題材や本時に関連する学習における児童・生徒の実態や課題等と、それに対応するための指導上の配慮や工夫を記述する。 |

(3) 教材観

|  |
| --- |
| ・　授業で取り扱う教材・教具、資料、地域の人材、学習環境等について、どのように活用するのかを具体的に記述する。  ・　題材観や児童・生徒観と関連させ、使用する教材等の活用の仕方等についての考えを記述する。  ・　必要に応じて、安全管理や事故防止のための配慮事項について記述する。  ・　授業で取り扱う楽曲については、楽曲名、作詞・作曲者名を明記する。また、鑑賞については、演奏者名も明記する。 |

５ 年間指導計画における位置付け

|  |
| --- |
| ・　本題材の学習内容と関連する学習内容の題材等が分かるように、表などを活用して年間指導計画を簡潔に記述する。  ・　学習内容の系統性を示す場合は、当該学年以外の年間指導計画との関連を記述することも考えられる。 |

６ 題材の指導計画と評価計画(全○時間)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 目標 | ○ 学習内容 ・ 学習活動 | 評価規準(評価方法) | | |
| 知・技 | 思 | 態 |
| 第１時 | ……………………………………………する。 | ○　………………………。  ・　………………………。  ・　………………………。 |  |  |  |
| 第□時  (本時) | ………………………………………………………する。 | ○　………………………。  ・　………………………。  ・　………………………。  ○　………………………。  ・　………………………。  ・　………………………。 | ②技  (聴取、記述) | 思①  (記述、発言、聴取) |  |
| 第△時 | …………………………………する。 | ○　………………………。  ・　………………………。  ○　………………………。  ・　………………………。 |  | 思②  (記述、発言) |  |
| 第○時 | …………………………………する。 | ○　………………………。  ・　………………………。  ○　………………………。  ・　………………………。 | ③知技  (聴取、発言、記述) |  | 態①  (行動観察、記述) |

|  |
| --- |
| ・　内容や時間のまとまりごとの目標は、[１　題材の目標]で示した育成を目指す資質・能力について、内容や時間のまとまりごとに細分化し、具体的に示す。  ・　内容や時間のまとまりを見通して構成を考え、主体的・対話的で深い学びとなるように学習内容及び学習活動を設定する。  ・　[３　題材の評価規準]で設定した評価規準の各項目については、題材の指導計画を踏まえ、適切な時期や場面で評価を行う。複数の題材で評価する項目等については、欄外等にその旨を記述するなどが考えられる。  ・　観点別の学習状況の評価は、毎時間、全観点について評価をするのではなく、それぞれの実現状況を把握できる段階で評価を行うなど、評価する場面を精選し、多様な評価方法を適切に取り入れ、設定する。また、児童・生徒の学習状況を把握し指導に生かす評価と、全員の学習状況を記録に残す評価を区別して示すことも考えられる。  ・　評価規準の欄を３観点に対応させて３列作成し、児童・生徒全員の評価を行う時間に評価の項目と評価方法を記入するとよい。  ・　主体的に学習に取り組む態度については、第１時から第○時まで継続的に評価するとよい。 |

７ 指導に当たって

|  |
| --- |
| ・　指導内容や方法、学習形態等について、工夫・改善したこと及びそれについての考え等を記述する。  ・　授業力の６要素(「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」、「統率力」、「指導技術(授業展開)」、「教材解釈、教材開発」、「『指導と評価の計画』の作成・改善」)や「主体的・対話的で深い学び」等を視点として記述するとよい。 |

８ 本時(全○時間中の第□時)

(1) 本時の目標

…………………………………………………………………………………………………………………………………する。

|  |
| --- |
| ・　本時において育成を目指す資質・能力を具体的に記述する。  ・　[６ 題材の指導計画と評価計画]で示した、当該時間の目標と一致させる。 |

(2) 本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容 ・学習活動 | 指導上の留意点 配慮事項 | 評価規準(評価方法) |
| 導入  …分 | ＊　児童・生徒と既習事項等を確認し、本時の目標を把握させるようにする。  ＊　児童・生徒が学習の進め方を知り、学習の見通しをもてるようにする。 | ＊　文字や画像、具体物等を用いて本時の目標を明示し、児童・生徒が理解できるようにする。  ＊　児童・生徒が課題意識をもてるよう、内容や提示方法等を工夫する。 |  |
| 展開  …分 | ＊　学習活動の流れ、学習する内容が明確になるように記述する。  ＊　授業者の主な発問や予想される児童・生徒の反応等を端的に記述するとよい。  <○　学習内容の記述例>  ○　△△の様子と▽▽の様子を比べ、違いや共通点に気付く。  ○　▲▲の性質を理解する。  <・　学習活動の記述例>  ・　□□の変化について記録する。  ・　▲▲の性質について気付いたことを、メモを基に意見交換する。  ・　意見交換したことを基に、自分の考えをまとめる。  〔予想される児童・生徒の反応〕  ‣ ○○だから、□□と考える。  ‣ ○○だから、△△と考える。 | ＊　本時の目標を達成するための指導内容、児童・生徒が課題を解決するための指導の工夫等について具体的に記述する。  ＊　児童・生徒の学習状況に応じた個別の指導、支援等について具体的に記述する。  ＊　学習内容や児童・生徒の実態に応じて、安全、衛生、健康等についての配慮や個別の対応について記述する。  ＊　必要に応じて、タブレットＰＣ等のＩＣＴの活用について記述するとよい。  ＊　複数の教員が指導に関わる授業では、各教員の役割を明確に記述する。  <記述例>  ・　○○について結果に基づいて考えられるように、□□の結果を整理して示す。  ・　●●の方法で、△△の視点から話し合うよう助言する。 | ＊　[６ 題材の指導計画と評価計画]で示した、本時の評価規準を示す。  ＊ 評価する場面が分かるように、学習内容、学習活動の記述と文頭の高さを合わせるとよい。  ＊　評価をする際の具体的なポイントや努力を要する状況の児童・生徒への手立てを記述してもよい。  ＊　「十分満足できる」状況(Ａ)の例や、「努力を要する」状況(Ｃ)と判断されそうな児童・生徒への働き掛けの例等を具体的に記入するとよい。  <記述例>  ②　……している。(聴取)  ②　……もっている。(記述、発言、聴取) |
| まとめ  …分 | ＊　本時の学習について振り返る時間を設定する。  ＊　次時の学習の見通しをもたせられるようにする。 | ＊　振り返りを通して、本時の目標に対しての実現状況等を確認する。  ＊　次時の学習の見通しをもたせるための言葉掛け等を行う。 |  |

(3) 板書計画

|  |
| --- |
| ・ １単位時間の学習の流れが分かるように、板書する内容を整理して具体的に記述する(題材名、目標、問題・課題、提示する資料、予想される児童・生徒の発言、まとめ等)。  ・ ＩＣＴを用いた提示等については、その内容や方法等を具体的に示す。 |

(4) 授業観察の視点

|  |
| --- |
| ・ 授業改善に向けて、重点的に観察してほしい点や協議してほしい点を具体的に記述する。  ・ [７ 指導に当たって]の内容や本時の目標、展開、時間配分、児童・生徒の学習活動の内容、教材・教具、発問・指示、評価場面や評価方法等を着眼点として具体的に記述するとよい。  〈記述例〉  ・ 思考・判断・表現について評価する場面は適切であったか。  ・ ○○を示したことにより、児童・生徒は▲▲について多面的・多角的に話し合うことができたか。  ・ 授業者が説明する場面と児童・生徒が思考する場面の時間配分は適切であったか。 |